



『淀川源流域の春を楽しむ』報告

びわ湖トラスト 理事 澤 薫

平成 28 年 4 月 23 日（土）、『淀川源流域の春を楽しむ - 南限のユキツバキと早春の花々・トチノキを訪ねて』のイベントが開催されました。びわ湖トラスト主催のこのイベントも今年で 3 回目を迎え、リピーターの方のご参加や、フランスや台湾のご出身の方、県外にお住まいの方からのご参加もあり、活動への関心の高まりが感じられます。大津より 12 名、彦根より 8 名がバスに乗り、総勢 20 名の参加。好天の中、それぞれに湖北の春を満喫いただけたようです。

最初に訪ねたのは椿坂峠。今回の講師である滋賀県立大学の野間直彦先生より、周辺に咲く花々や木々等について、ひとつひとつご説明いただきました。クリンユキフデ、チャルメルソウなど、初めて目や耳にするものもあってか、皆さん、熱心にメモや写真を撮っておられました。また、少し耳を澄ますと、カケス、コガラのほか、オオルリやサンショウクイなどの野鳥の声が聞こえ、空にはサシバの姿も。話題はどんどん広がっていきます。



今回の一番の期待の花、ユキツバキは、今冬は雪が少なく、既に最盛期を過ぎていましたが、木によってはまだ花をつけていて、ユキツバキとヤブツバキ、ユキバタツバキの違いや見分け方を教わりながら、皆さん、じっくりと観察されていました。

昼食は、地元で焼畑をされている永井さんにお弁当の手配をお願いし、中河内公民館でいただきました。永井さんにも公民館にお越しいただき、お弁当に使われている地元の具材や、ご自身の焼畑や農産物の加工についても少しお話を伺いました。



午後からは、中河内にある広峯神社周辺で観察。ザゼンソウは既に時期が過ぎていましたが、見上げれば、見事なトチノキやケヤキ、ブナの木がそびえ立ち、沢沿いにはニリンソウやワサビの花がここかしこに。ゼンマイは食用のみならず、綿を絹糸に混ぜてゼンマイ紬という織物にも使われているとのことのお話もありました。



最後は、野間先生が2010年から毎年実施されている焼畑のフィールドへご案内いただき、いづどこに火入れをされ、それぞれの場所が今どのような状態になっているか、ご説明いただきました。夏に火入れし、乾かした後、山かぶらを植え付けて、秋に収穫。火入れをすることで、灰が肥料となり、また雑草や害虫の発生を防げるそうです。収穫した畑はしばらく休ませ、数年で山に戻すとのことでした。今年の火入れは、8月初めに行われるそうで、先生からも参加のお声がけをいただきました。



帰りは琵琶湖岸を歩いて彦根駅へ。ここからの眺めは、びわ湖の美しさ、大きさが改めて実感できます。途中、湖北みずどりステーションに立ち寄り、皆さん、更なる春の恵みをカバンに詰め込まれ、元気に帰途につかれました。